

人と緑が共生し、にぎわいのあるまちへ 多摩平の森地区のまちづくりが進んでいます

多摩平の森地区は、昭和31年からUR都市機構（当時の日本住宅公団）により基盤整備が行われ、昭和33年には多摩平団地が建設されました。建物老朽化などの課題により平成9年からUR都市機構による団地再生事業が開始され平成20年には整備は終了、現在は整備で生じた余剰地約20haについて、民間活力などを導入したまちづくりを進めています。

団地再生事業や現在のまちづくりでは、平成8年から多摩平の森自治会・日野市・UR都市機構による話し合いを行う場として「三者勉強会」が実施され、市民参加型のまちづくりが進められています。また、豊田駅を中心としたまちづくりをテーマに市民・UR都市機構・周辺企業・関係機関などが参加する協議会も行われています。

広報今号では、多摩平の森地区のまちづくりの進ちょく状況やこれからのまちの姿などをお知らせします。


まちづくりに関する計画の位置付け

豊田駅を中心にコンパクトで環境負荷の少ないまちへ

■多摩平の森地区重点地区まちづくり計画

人と緑が共生し育て上げてきた環境を大切にしながら、この土地に関わるさまざまな人々が、安全、安心で住み心地の良い・居心地の良いまちを次世代に引き継げるような計画としています。

重点地区まちづくり計画での まちづくりの目標

まちの魅力を次世代に引き継ぐコンパクトなまちづくり

- ① 緑・環境と共に生きるまち
- ② 歩いて暮らせる安全安心のまち
- ③ にぎわい・活力ある多世代共生のまち

多摩平の森まちづくり重点地区の開発・土地利用進ちょく状況



① 緑・環境と共に生きるまち

多摩平の森地区の資源である豊富な緑の保全と合わせ、CO₂削減などの環境負荷の低減などを誘導し、地球・地域環境に優しく、持続的な発展を可能にする環境共生のまちを目指します。

▶ユリノキ通りの保全

ユリノキ通りの緑地を、地域で維持管理していけるように取り組んでいます。団地の住民のほか、周辺の住民や、幼稚園、保育園、事業者など、多様な主体、多様な世代の参加を進め地域の交流に繋がるように検討しています。



② 歩いて暮らせる安全安心のまち

徒歩圏内への公共・公益施設整備、ユニバーサルデザインや防犯・防災性に配慮した歩行者ネットワークの形成などを図り、誰もが歩いて暮らすことができる安全安心なまちを目指します。

▶歩行者ネットワークの形成

団地再生事業では緑地と一体となったゆとりある歩行空間が整備されるなど、周辺の方が快適に出掛けられるまちづくりを進めています。これから整備される敷地についても、安全で快適な歩行者空間の整備を進めていきます。周辺の交差点改良や車道の舗装補修なども実施しています。

▶徒歩圏内での公共・公益施設の整備

多摩平の森地区には、市立病院や中学校、多摩平の森ふれあい館などのさまざまな公共施設が立地しています。また新たな住宅ができた地域内に住む方の増加に対応するため、現在ある保育園や幼稚園に加え、N街区やA街区では保育施設が整備される予定です。

また、A街区では現在、三世代が安心して暮らせるように、医療・福祉を中心とした公共公益施設の整備について検討しています。



③ にぎわい・活力ある多世代共生のまち

商業機能の集積・拡充を図り、住民や就業者の交流の場の形成、活力あるまちを育てる住民活動などを誘導し、にぎわい・活力ある多様な人々が住まうことのできるまちを目指します。

▶11/20にイオンモール多摩平の森がオープン～豊田駅前をにぎわいの拠点に

にぎわいの核となる商業拠点として、イオンモール多摩平の森がオープンしました。豊田駅前交差点などの人が集まる地点には、にぎわいや憩いができるように広場が設けられました。

▶平成27年度にはN街区に障害者生活・就労支援施設や産業支援施設を整備

イオンモールの北側にあるN街区の複合マンションの1階部分には、平成27年4月開設予定の障害者生活・就労支援センターや平成27年10月開設予定の産業支援施設など、多様な働き方をテーマとした公共施設が整備される予定です。

